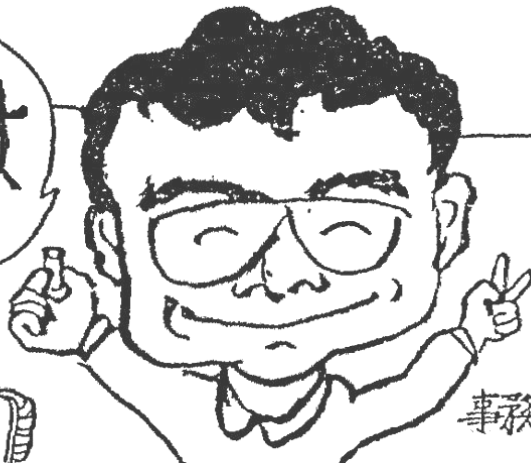


こんにちは

日本共産党
県議会活動報告
週刊ニュース

2016年11月20日 NO.908



さらに
吉良富彦

吉良富彦です

事務所

吉良富彦事務所 855-9439 愛宕商店街
議会控室 823-9524 県議会内

国家賠償裁判支援 ビキニ被災検証会開催

ビキニ水爆被曝から62年。そして、高知の高校生達が追跡調査を始め32年、誰が、なぜ事件を闇に葬ろうとしたのか。この疑問の解明を、正確な記録にもとづく検証によってなそうと、第6回検証会が東京で開催されました。

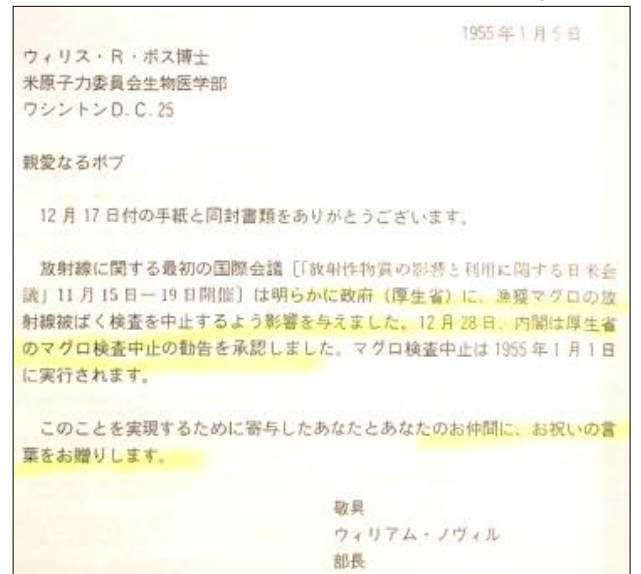
被ばく量検査の中止は 米原子力委員会の指図

●1954年12月28日、政府は、9月末に久保山愛吉さんが放射能症で死去し12月になっても

500カウント以上の高い汚染度のマグロが水揚げ

げされているにも関わらず、放射能検査中止の閣議決定をした。汚染マグロは国民の口に運ばれ、被災船員も放置された。

(福島原発事故に対する政府の対応がダブって見える)ともあれ、閣議決定へと導いた影の力、それは、11月に開かれた「放射性物質の影響と利用に関する日米会議」で、被ばく量を問題ないがごとく過少だと報告した「アメリカ原子力委員会」だった。マグロ調査協会から米原子力委員会への手紙には、日本政府・厚労省の検査中止に「寄与したあなたとあなたのお仲間に、お祝いの言葉をお贈りします」と明確に書いています。(写真参照)



「フクシマ」を第二の「ビキニ」にするな!

●検証会で、放射性降下物による晩発性障害の危険性を究明する

多くの科学者、研究者に通ずる思いは、「フクシマ」を第2の「ビキニ」にしてはならない!という事。

45人の被災船関係者の国家賠償を求める訴訟の勝利と、10名の船員保険の適用を勝ち取ることが、これ以上の被ばく者を出さない事になる思いを込めて、私は県議会での動向について報告してきました。



キラリンにゃんでも通信

●一ツ橋小学校と愛宕中学校に挟まれた私の町内会は小学校校区で児童数が一番多く、また、自転車通学の中学生も集中するの、事故が絶えない。そこで、通行規制すべく県警に要望。朝7時半から一時間で住宅街流入数が、なんと、266台に上ることが県警調査で判明。町内会例会に県警招き時間規制の方向だけでなく、地域を走行速度時速30km以下の「ゾーン30」地域へ合意。安全安心な地区へと前進です。